

# 『国トイフ モノニ染マラヌ 百合ノ花』

## 全国高等学校文芸コンクール俳句部門最優秀賞受賞

本町出身で山形東高等学校2年生の東海林あやさんが、第40回国高等学校文芸コンクール俳句部門において、見事、最優秀賞を受賞されました。12月26日(金)には庄司町長へ表敬訪問を行いました。東海林さんに受賞されたお話を伺いました。

### 俳句との出会い

東海林さんが本格的に俳句を始めたきっかけは、高校入学後、文芸部の先輩たちが「俳句甲子園」に挑む動画を見て感動したことでした。もともと小・中学校の授業で俳句を作る機会があり、以前から身近なものであるという感覚は持っていたそうです。

### 高校では、文芸部の部長を務める

東海林さんは、文芸部の部長を務めています。普段は、句会などを通じて、日々、表現力や感受性を磨いています。

### 「芯のようなものを持つことができた」

今回受賞した句は、自宅に咲く凛と咲き誇る真っ白なユリを自身に重ね詠んだ句で、「時代によって国の形は変わるけれど、芯のようなものを見失わないように持つことができた」という想いが込められています。そこがまた、国の形が大きく変わった時代の象徴として、大日本帝国憲法の表記を参考に、あえて漢字とカタカナを組み合わせた表現に仕上げました。

### 受賞の驚き

東海林さんは、今回の全国コンクールでの受賞についてまさか自分が選ばれるとは思っていません。たよりで、とても驚いたそうです。また、表彰式では、「同じように俳句へ情熱を注ぐ同世代の方々と交流でき、非常に良い機会をいただいた。」と話します。

### 受賞の喜びと葛藤

一方で、大きな実績を残したことで「自分の詠んだ句がすべて『正解』だと思われてしまうのではないか」という不安や、句会での自分の発言が周囲に与える影響の大きさなど、受賞者としての責任の重さも真摯に受け止めています。



第40回 全国高等学校文芸コンクール表彰式

主催：(公社)全国高等学校文化連盟 読売新聞社 後援：文化庁他 協賛：(公財)一ツ橋文芸教育振興会

### 豊かな自然が育む感性

俳句の魅力について、東海林さんは「四季の変化に敏感になり、日頃の言葉遣いも意識するようになった」と話します。

特に、小学校の頃から肌で四季の環境を感じることでできる環境にいたることができたのはとても大きかったそうです。「大石田町は、四季がはっきりしています。この自然が豊かな環境を身近に感じてもらう、その中で一人でも句を詠む機会を得られる人が増えるといいと思います。」と話してくださいました。



今後も東海林さんの素晴らしい感性が、これからどう広がっていくのか目が離せません。この度は、受賞大変おめでとうございます。

(写真：山形東高等学校)

# 全国高等学校文芸コンクール表彰

高等学校文化連盟 読売新聞社 後援：文化庁他 協賛：(公財)一ツ橋文芸教育振



東海林あや (山形東高等学校2年)